

# 備中国分寺跡(総社市)

「中国自然歩道案内図(備中国分寺と古墳を訪ねるみち)」より



備中国分寺跡の推定寺域と伽藍配置/現在、備中国分寺跡には江戸中期に建立された日照山國分寺が建っている



南門辺りから日照山國分寺方向(北方向)を見たところ/左手の五重塔は江戸時代に建立されたもの



この辺りが南門跡



南門跡なんもんあと

備中国分寺の正門にあたるこの門跡には、三個の礎石が現存しています。

そのほかの礎石は抜き取られていますが、礎石の下部に詰めていた根石が残っており、門の規模は間口五間、奥行二間であったことがわかります。

門の両脇には寺域の南限を画する築地土塀が東西方向へまっすぐ取りついでいました。

この段差に沿って築地土塀が建っていたようだ

[video](#)



# 築地土塀

創建当時の備中国家  
寺では、寺域の周囲に  
幅一、二〜三メートルの  
築地土塀が築かれていま  
した。築地土塀のめぐり  
範囲は東西約一六〇メートル、  
南北約八〇メートルで、南辺中  
に南門が建てられていました。

説明板/約500m東に備中国分尼寺跡が所在する

# 国指定史跡 備中国分寺跡

Nationally Designated Historic Site Bitchu Kokubunji Temple  
国家指定古迹 備中国分寺遗址 / 國家指定古迹 備中國分寺遗址  
국가 지정 사적 빗추코쿠분지 절터



軒丸瓦  
Round eave tile

軒平瓦  
Flat eave tile

- 所在地 岡山県総社市上林
- 指定年月日 昭和43(1968)年2月15日

天平13(741)年、聖武天皇は仏教の力で戦乱や疫病などの災いから国を守るという鎮護国家の考えにもとづき、国分寺と国分尼寺の建立を全国に命じました。これが「国分寺建立の詔」です。備中国では、この場所に国分寺、約500m東に国分尼寺が建てられました。

備中国分寺跡では、昭和46(1971)年の発掘調査によって、南門跡、中門跡、築地土堀跡、建物跡、井戸跡が確認されました。南門跡、中門跡には一部礎石が残存しています。寺院を構成する建物を伽藍と呼び、当時の金堂、講堂、塔は、現在の国分寺境内の場所にあったと考えられますが、詳細は不明です。周囲にめぐらされた築地土堀の跡から、寺域は東西約160m、南北約178mにおよぶことがわかりました。

出土した瓦から、備中国分寺の創建は8世紀中ごろと考えられます。中世には衰退し、その後江戸時代中期に日照山国分寺として再興されました。現存する伽藍はすべて江戸時代に建てられたもので、五重塔が国指定重要文化財、庫裏・裏書院・経蔵は県指定重要文化財になっています。

平成27年9月 岡山県教育委員会

In the year 741, Emperor Shomu ordered the construction of Kokubunji and Kokubun-niji Temples throughout the country. This is known as the "Kokubunji Construction Decree". In the Bitchu Province, Kokubunji Temple was constructed at this site, and Kokubun-niji Temple was constructed at another site approximately 500 metres east of here.

In an excavation survey carried out in 1971, the original remains of such structures as the south gate, inner gate, tamped-earth wall with roof, buildings, and well were identified at Bitchu Kokubunji Temple site. Some of the original foundation stones of the south and inner gates still remain. It is believed that the original main hall, lecture hall, and pagoda also stood within the current Kokubunji Temple grounds, but exact details are unknown. It is known that the temple grounds extended approximately 160 metres east to west, and approximately 178 metres south to north.

Bitchu Kokubunji Temple is thought to have been established sometime around the middle of the 8th century. The currently existing temple structures were all constructed during the Edo period, with the five storied pagoda nationally designated, and the priest living quarters, guest house, and sutra repository prefecturally designated as important cultural assets.





この辺りは中門跡



# 中門跡

現存する礎石は一個だけですが、礎石を抜き取った穴と礎石の下に詰めていた根石が残っており、南門と同じく間口五間奥行二間の門であったことがわかります。

しかし、礎石の間隔が南門とくらべてやや広く、建物もやや大きかったと思われます。

手前の大きな窪みは井戸跡



# 井戸跡 いどあと

井戸枠は二木を合<sup>あ</sup>ねて作られており、  
 形は、約一三センチメートル×六〇センチ  
 メートルの楕円形をなして、  
 井戸枠の外側には板を打ちこんで  
 長方形につくった外枠が設けられて  
 おり、また流し溝の痕跡も残って  
 いました。

井戸の上には、四本の柱に支えられ  
 た覆<sup>おほ</sup>屋<sup>や</sup>が設けられていました。これ  
 は柱を造った痕跡や柱の残欠から  
 わかったものです。



井戸跡発掘略図

さて、これは日照山國分寺の山門

 video



根巻き金物



山門を左手から見たところ



これが本堂

 video





南西側から境内を見たところ



袴腰付きの鐘楼



こんなものもあった



お地藏さんの足元には創建時の礎石が・・・



アップで見たところ



この石碑の足元にも創建時の礎石が・・・



アップで見たところ



さて、これが五重塔/文政4年(1821年)~弘化元年(1844年)の建立/重要文化財

 video





岡山県内唯一の五重塔で、初重から三重までがケヤキ材を、四重以上がマツ材を主に使用していると云う/初層、尾垂木の上に龍の彫刻が施されているらしい

びっ ちゅう こく ぶん じ ご じゅうのとう

# 国指定重要文化財 備中国分寺五重塔

Nationally Designated Important Cultural Property Bitchu Kokubunji Five Story Pagoda  
国家指定重要文化財 備中国分寺五重塔 / 國家指定重要文化財 備中國分寺五重塔  
국가지정 중요문화재 빗추코쿠분지 고주노토

- 所在地 岡山県総社市上林
- 指定年月日 昭和55(1980)年12月18日

備中国分寺五重塔は、江戸時代後期の文政4(1821)年に建設が始まり、弘化元(1844)年頃に完成したと考えられます。岡山県内に現存する唯一の五重塔で、国の重要文化財に指定されています。備中国分寺のその他の建物では、庫裏、裏書院、経蔵が県の重要文化財に指定されています。現在の塔の位置は、奈良時代に建立された備中国分寺の西側築地土塀の中ほどにあたります。

塔の総高は約34.3メートルで、三層までは榿材、四・五層は松材が主体の木造本瓦葺きで、青銅製の相輪が立てられています。心柱は床下の礎石から塔の中心を貫いて相輪に達しています。塔身部が高くて相輪が短い特徴があります。

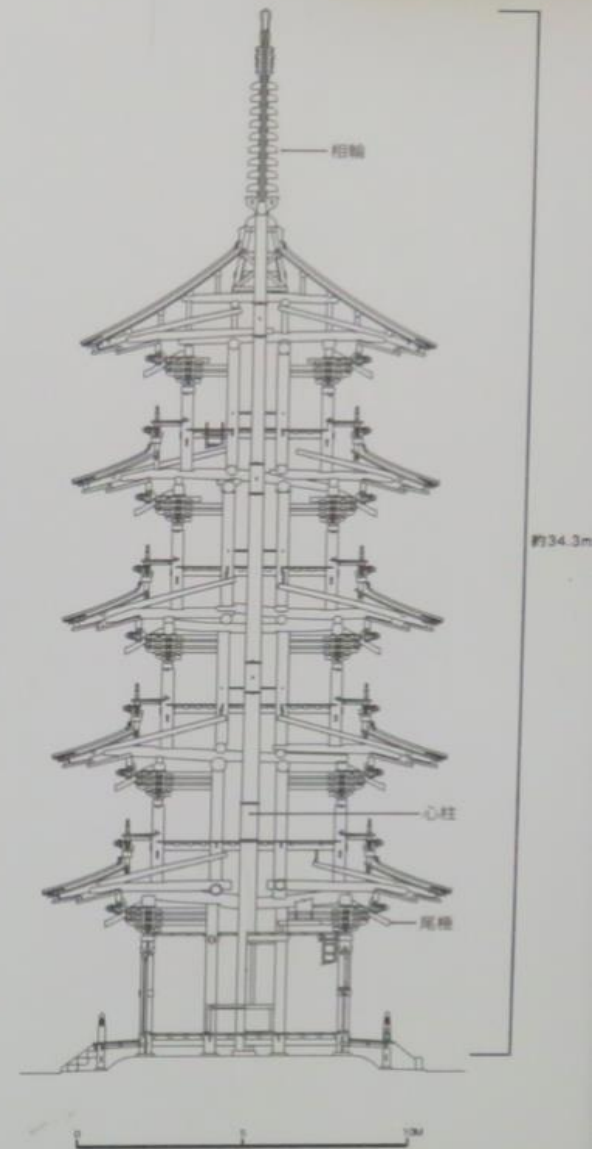
初層の中央には、大日如来を表す心柱を中心に、東に阿闍如来、西に阿弥陀如来、南に宝生如来、北に不空成就如来の五智如来像が安置されています。初層外部の装飾としては、幕股に施された十二支の禽獣彫刻、尾檼の上の龍の彫刻などがあります。五層には、塔の建設に力を尽くした説旭和尚の木像が安置されています。

備中国分寺五重塔では、平成2(1990)年から大規模な修理事業が行われ、平成6(1994)年に修理事業は完了しました。

平成27年10月 岡山県教育委員会



五重塔初層内部(西面)



【五重塔 断面図】

Construction of Bitchu Kokubunji Five Story Pagoda is thought to have begun during the late Edo period in 1821, and to have been completed in around 1844. The pagoda is the only currently existing five story pagoda within Okayama Prefecture, and is nationally designated as an important cultural property. The current location of the pagoda is at the mid-point of the western portion of the tamped-earth wall with roof of Bitchu Kokubunji Temple, which was erected during the Nara period. The total height of the pagoda is approximately 34.3m. The lower three stories are constructed from zelkova timber, the fourth and fifth from pine timber, with all stories featuring wooden tile roofing, and the bronze pagoda finial standing at the top. The central pillar pierces the centre of the pagoda from the foundation stones below the floor through to the pagoda finial. The tall pagoda body and short finial are characteristic to this structure.

擬宝珠高欄を付した縁を巡らし、中央間棧唐戸、脇間連子窓、中備えの臺股は十二支の彫刻が嵌め込まれている



組物は三手先斗栱/垂木は二軒平行繫垂木



参考ホームページ

<https://tabi-mag.jp/ok0287/>

[http://www.city.soja.okayama.jp/bunka/kanko/shitei\\_bunkazai/kuni/kuni\\_02.html](http://www.city.soja.okayama.jp/bunka/kanko/shitei_bunkazai/kuni/kuni_02.html)

<https://tabioka.com/bitcho-kokubunji-temple-ruins/>

<https://yutaka901k.choitoippuku.com/page5ebx03.html>

<http://urawa0328.babymilk.jp/okayama/bicchuu.html>

<https://kawai25.sakura.ne.jp/okayama-kokubunji.htm>

